

(件名)

総合特区評価書（案）の概要

(静岡県知事直轄組織総合政策課)

1 概要

「ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区」は、原則として1年ごとに自ら評価を行い、内閣府の総合特区評価・調査検討会において評価を受けることとなっている。評価書は前年度の検討会における専門家所見を踏まえ、作成した。

2 令和元年度総合特区事業の評価

(1) 評価方法

提出した評価書は、内閣府の検討会において、次の評価項目ごとに採点・評価が行われる。平成30年度総合評価：4.1

評価項目	評価の比率	H30 評価	評価者
I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	1	4.3	県・内閣府 (4.8) 3.8)
II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価	1	4.2	内閣府
III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価	2	4.0	
III 専門家所見（課題箇所） ・政策推進にあたり、住民への説明や、参画の機会を一層設けることも肝要である。 ・地域資源を活用した新しい産業の創出・集積に関して、既存の産業集積や食・農といった静岡ならではの資源の一層の活用が望まれる。 ・新規の住宅開発や工場移転だけでなく、空き家・遊休地となるエリアへの取組についても継続した検討を期待したい。			
IV 総合評価 - (1)、(2)及び(3)の評価の点数を1:1:2の比率で計算した結果を総合評価とする。			

(2) 取組の進捗評価（評価指標の自己評価）

・令和元年度の自己評価は5点満点中5.0（H30は(4.8)）

政策課題(評価指標名)	数値目標	実績(R1)	目標(R1)	進捗率	寄与度	評価	
防災・減災機能の充実・強化	地震・津波アクションプラン2013において目標を達成したアクションの割合	40%	39%	103%	50%	5	5
	“ふじのくに森の防潮堤づくり”の整備延長	13,949m	20,429m	68%	25%	3	
	津波の要避難地区で避難が必要になる人に対する津波避難場所の充足率	96.9%	92.8%	104%	25%	5	
地域資源を活用した新しい産業の創出・集積	企業立地件数	累計143件	累計130件	110%	33%	5	5
	新成長分野の取組件数	累計236件	累計220件	107%	33%	5	
	6次産業化等の新規取組件数	累計331件	累計320件	103%	33%	5	
新しいライフスタイルの実現の場の創出	豊かな暮らし空間創生住宅地区画数	累計309区画(H26-R1)	累計300区画(H26-R1)	103%	33%	5	5
	移住相談窓口等を利用した県外からの移住者数	累計2,574人	累計1,600人	161%	33%	5	
	県内の太陽光発電の導入量	190万KW	190万KW	100%	33%	5	
暮らしを支える基盤の整備	高規格幹線道路へのアクセス道路の供用率	64.6%	64.6%	100%	50%	5	5
	国及び県の助成制度等を利用して建設された物流施設件数	累計26件	累計20件	130%	50%	5	

注1 進捗度の評点基準：5「進捗度100%以上」 4「80%以上~100%未満」 3「60%以上~80%未満」 2「40%以上~60%未満」 1「40%未満」

(3) 評価書の主な改善点

平成 30 年度評価の中で比較的評点が低く評価比率の高い「Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題に関する評価」について次のとおり改善を図った。

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題に関する評価	
○全般	専門家意見に対応する標題を設けた。(P6、9、10、11、13)
○住民への説明や参画の機会を一層設けること	関連する取組の記載を更に充実させるとともに、事業の説明した住民の数、地域活動の参加者数等を具体的に明示した。(P6、7、9、13) 例) 防潮堤の事業に合せ、令和元年度末までに地域住民を中心に 30,000 名以上に説明
○既存の産業集積や食・農といった静岡ならではの資源の一層の活用	関連する取組の記載内容を更に充実させた。(P10、11) 例) 本県が日本一の取扱量を誇る冷凍マグロの加工を行う企業の工場の建築工事が完了
○空き地・遊休地となるエリアへの取組	関連する取組の記載内容を更に充実させた。(P13) 例) 民間企業の社宅跡地を活用した住宅団地の整備に取り組み、美しい街並みに再生